

『風は南から』

令和7年度 校長室便り
(8月20日)(第11号)



知覧特攻平和会館訪問



戦後80年という節目にあたり特別展も開催されているということを知り、知覧特攻平和会館を訪問しました。実は前任校では、1年生の遠足の訪問地になっており、数えただけでも5回は訪れていました。よく知っている場所ではありましたが、なぜか行くべき思いに駆られていました。

生憎雨が降っていましたが、会館の周りにある特攻勇士の像「とこしえに」や特攻兵が寝泊りした三角兵舎を見て中に入りました。丁度語り部の講話の開始時間だったので、沖永良部から来られていた池野さんご家族と共に30分ほど話を聞きました。

特攻の歴史から兵士に関する逸話を聞きましたが、何度聞いても胸が締め付けられる思いがします。東郷を特攻に行かせた責任から妻が止めても聞かず志願し、諦めた妻は夫がこの世に未練を残さないようにと子どもと先に川に身を投げ、教え子の操縦する特攻機の後ろに乗って攻撃に加わった兵士の話が心に残りました。

それから館内を巡り、出撃したものの飛行機の故障で中之島や徳之島などに不時着し、終戦を迎えた方々のインタビュービデオを見ました。当時特攻に選ばれることは名誉なことだったと語る方、一旦飛び立つと何も考えられなかったと言う方、大きなエンジン音の中でなぜか「お母さん」と叫んでいた方、その後何度も志願したけれども願いは叶わなかった方など、思いはそれぞれだったということがわかりました。

8月9日・10日に旧陸軍第20振武部隊の穴澤利夫大尉(23歳で戦死)と婚約者の智恵子さんの演劇がある。と聞き、残念ながら舞台は見ることができませんでしたが、彼女に宛てた手紙や日記を読むことができました。中央大学時代に智恵子さんと知り合い婚約し、学徒出陣で特攻兵となり、最後は智恵子さんからプレゼントされた白いマフラーを播いて出陣されたそうです。そして、最後の手紙が智恵子さんに届いたのは、亡くなった4日後でした。「あなたの幸せを願う以外に何もない。」「智恵子会いたい。話したい。無性に。」という言葉に、穴澤大尉の本心が伺えます。穴澤大尉の企画展は、10月31日まで行われているそうです。

日本被団協にノーベル平和賞を授与したノルウェーのノーベル委員長であるフリードネス氏は、日本での講演の中で、若者に向けて「あなたが未来における記憶の管理人である」と言っています。今回改めて、自分の目で確かめることの大切さ感じました。

「平和へのメッセージfrom知覧スピーチコンテスト」を見て

8月15日(金)に毎年南九州市が主催する「平和へのメッセージfrom知覧」の第36回スピーチコンテストをインターネットで拝見しました(アーカイブでもご覧いただけます)。今回も、鹿児島県内をはじめ全国から応募があり、中学生4名、高校生4名、一般1名、小学生1名の発表がありました。家族や親族の戦争体験を聞き、平和の尊さについて考えた内容が多かったわけですが、中でも私が感動したのが自ら行動して考えた高校生の発表でした。

長崎西高校の大原さんは、被爆体験者から体験を聞き、高校生平和大使としてスイスやノルウェーで平和活動をした体験を語っていました。「高校生でもできることがある」という力強い主張に共感しました。また、滋賀県近江兄弟社高校の小西さんは、トビタテジャパンを利用してマルタ共和国に留学した体験を語っていました。その時出会ったリビアの青年との平和に関する認識の違いに気づきます。内戦が続くリビアで育った彼から「あなたは戦わずに平和を守れるか?」と問われて、平和とは何かを自ら問い直し、リビアと日本とのオンライン交流会を企画したという内容でした。平和を守ることだけでなく育むことが大切だと語る小西さんは、将来自分のやるべきことははっきりと見えていました。

その後、ジャーナリストの池上彰さんの「ニュースから世界を見る」という演題の講演がありました。なぜ日本が無謀な戦争を始めることになったのか、取材に基づく池上さんの解説を聞き、よくわかりました。初めて聞く内容も多かったわけですが、まずは正しく知ることが本当に必要なと感じました。講演の中で池上さんが戦争を繰り返さないためにどうすればよいのか、強調されたことをまとめてみます。

- ・記録は歴史にはなるが、「記録」ではなく、体験者の「記憶」をしっかり伝えていくこと、そしてリアルに考えることが大切である。
 - ・これまで「記憶」を引き継いできたからこそ、日本では戦争が起こっていない。
 - ・戦争がなぜ起こったのかを検証することが大切。それを教訓にしなければならない。
 - ・戦争は始めることは簡単だが、やめることは難しくなる(ウクライナとロシアの戦争も同じ)。
- 「8月や6日9日15日(読み人知らず)」

琉球祭り太鼓 沖永良部支部 結成25周年記念公演「響宴」



8月16日(土)あしびの郷・ちなで開催された琉球祭り太鼓沖永良部支部の結成25周年記念公演「響宴」を見に行きました。会場は受付時間からすでに満員御礼で、熱気に満ち溢れていました。

公演は24の演目と、途中「ゆーはらんバンド」と「えらぶネーネー達」の特別出演もあり、最後まで大変盛り上がりました。沖高生も出演から受付・司会等の裏方の仕事まで、活躍する場面を多く拝見し大変頼もしく感じました。

若さの躍動感と太鼓の音色の余韻の残る素晴らしい公演で、感動を胸に帰途に就きました。